

2019年度 事業報告書

(2019年4月1日～2020年3月31日)

一般社団法人 日本真空工業会（以下、JVIA）は小日向 久治 会長の下で、基本方針である定款第3条の「(JVIAの目的は) 国民生活の向上に寄与すると共に会員の発展、繁栄と会員相互の協調を図ることを目的とする」に則って活動を行った。今年度はJVIAの長期ビジョンに基づいて策定される「アクションプラン2021」の初年度に当たり、「社会的使命」と「会員の利益」の二つを機軸として、JVIAの「存在感のアップ」と「グローバル化」を具現化するべく、理事会、企画委員会、各専門委員会、ならびに関西支部を中心に活動を行った。

1. 2019年度のトピックス

- ・一般社団法人化に伴い臨時社員総会（5月）後に、設立記念行事を開催した。
- ・賛助会員:2社、特別会員:1団体の入会があった。（退会－賛助会員:2社）
- ・教育講座として「真空ウォーキングコース」「真空入門講座」を開催した。
- ・VACUUM2019 真空展をパシフィコ横浜にて開催した。
- ・「環境教育講座」及び「安全教育講座」が関東と関西で単独で開催した。
- ・経済産業省との連携で「中小企業等経営強化法」に関わる証明書発行書業務をした。
- ・若手交流会は関東と関西で開催した。
- ・真空ジャーナル9月号に環境活動報告書2019を盛り込んだ。
- ・サプライヤ交流会を真空展初日にインターコンチネンタルホテルにて実施した。

2. JVIA 活動内容の詳細

1) 関西支部

- ・第33回定時総会・講演会・懇親会 2019年6月12日(水) 於:アートホテル大阪ベイタワー
総会出席会員数:21社(出席者人数:32名) 書面による参加会員数:26社 計47社でした。
総会講演会は自然科学研究機構国立天文台ジャスミンプロジェクト 三好 真 様をむかえ
「ブラックホールの姿はみえるのか?」を演題に講演していただいた。聴講者数:51名
続いて懇親会を行なった。参加者数:42名
- ・秋季合同講演会・懇親会 2019年9月25日(水) 於:アートホテル大阪ベイタワー
秋季合同講演会(公益社団法人 日本表面真空学会 関西支部との共催)を開催した。
 - ① 大阪府立大学 大学院工学研究科 山田 幾也 准教授様より
「超高压合成法を活用した材料合成」
 - ② 大阪府立大学 現代システム科学域知識情報システム学類 渡邊 真治 教授様より
「デジタル技術活用の現状とDX(デジタルトランスフォーメーション)の課題」と題してそれぞれ講演していただいた。
聴講者数:54名 懇親会:44名
- ・第51回若手社員交流会 2019年6月21日(金)
 - ① 神戸海洋博物館/カワサキワールド
 - ② 理化学研究所 計算科学研究センター見学 参加人数:26名、懇親会参加人数:27名
- ・第52回若手社員交流会 2019年11月10日(日)
堺市「観光農園 南楽園」 ①ミカン狩り ②BBQ 参加人数:26名

- ・支部会 2019年11月15日(金)・16日(土)
視察場所：①高輝度光科学研究センター ②赤穂城/赤穂大石神社
参加者：15名
- ・見学会 2020年2月5日(水)
・大鵬薬品工業(株) 北島工場 ・(株)キド(洲本) 参加者：28名

2) 企画委員会

- ・サプライヤ交流会が真空展初日の9/4に開催し、参加人数：89名(33社)が参加、サプライヤプレゼン(5社)および懇親会を盛況に行った。
- ・若手交流会(JVIA—EAST)
(春) 会員企業の社員やその家族も参加いただけるレクリエーション行事
第27回若手交流会が6/1に「貸切屋形船でわいわい真空を語りませんか?』と題して、隅田川からの景色を楽しみながら、東京下町の本格もんじゃ焼きを堪能した。参加者：31名
(秋) 企業・研究機関の見学会
第28回若手交流会が1/29に「予約困難なレア体験! ANA 機体工場見学」として開催した。
若手のみならず年配者の参加者もあり、30名という多数参加していただき、間近で見る機体に圧倒されながら、和やかに行われました。参加者：30名
- ・身近な真空調査小委員会、
 1. 真空技術を広め会員事業機会拡大につながる活動として、展示会において「真空実験コーナー」「真空なんでも相談コーナー」を開設した。・真空展2019 ・新価値創造展2019
 2. 「ここにもあった真空技術～100均製品の真空技術～」をJVIA Webに掲載。

3) 教育委員会「真空産業に関する情報の普及および啓発」

幅広い産業の基盤技術である真空技術の維持・向上を図る目的で本年度は下記の2件の真空教育講座を実施した。

- ・第25回真空技術基礎講習会「真空ウォーキングコース」を行った。
8/26～8/30(於：工学院大学 八王子キャンパス) 受講者数:144名(A,B日程) 前年比:100%
ここ2年間、定員:128名のところ、144名と多くの参加かがあり、新人教育の一環として役立った。
- ・真空展における「はじめて真空」「真空入門講座」の2講座を行った。
9/4～9/6(於：真空展パシフィコ横浜)
「はじめて真空」 受講者数：59名(3日間) 「真空入門講座」 受講者数158名(3日間)

4) 出版委員会「真空産業に関する情報の普及および啓発」

JVIAの活動を広く会員各位および社会に公告するため、下記の広報活動が実施された。

- ・真空ジャーナルは年4回発行(毎回：1200部)

5) 規格標準委員会「真空機器に関する規格の立案および標準化の推進」

- ・ISO/TC112で取り扱う真空技術に係わる国際規格の整備事業を、公益社団法人日本表面真空学会と共に「規格標準合同検討委員会」として活動を行った。
- ・ISO/TC112会議(京都開催)を5/28～31に開催した。出席者：27名
- ・9/6に開催された真空展における規格標準報告会は「パーティクル付着のメカニズム～ドライ洗浄によるパーティクルの除去～」と題して、高橋 主人 先生に講演していただいた。
受講者数：51名(前年比:86%)

・JIS8126-1（真空一般用語）改正の JIS 原案作成委員会

ISO 3529-1（真空一般用語）が 2019 年 7 月に発行されたため、JIS8126-1 の改正について日本規格協会の公募制度に応募しました。

6) 技術委員会「真空機器に関する技術開発に係わる調査研究」

産業動向の調査検討を行い、真空産業分野の新規事業開拓に関する情報提供を行うために 2019～2020 年度の技術調査活動「自動車と真空」をテーマとして活動を開始したが、産学連携の取り組みの推進強化を目的に技術委員会とフォーラム・セミナー小委員会を統合し、「技術フォーラム委員会」としてスタートした。真空展でのフォーラム・シンポジウム講演会のテーマを検討する。また、フォーラム・シンポジウム講演会後に真空ジャーナルにて報告する。

7) 統計委員会「真空機器に関する生産・流通・及び保全等の調査研究」

- ・ 2019 年度の統計参加会社数は 52 社で、四半期ごとに受注・売上データを集計し年間で 4 回プレスリリースを実施した。四半期毎の国際統計事業は日本（JVIA）、欧州（EVTA）、米国（AVEM）の 3 団体から真空コンポーネント製品の売上データの収集を行った。毎年 1 回開催される国際統計会議（ISVT）は 11/12 にフランクフルトで開催し、JVIA からは統計委員長・コンポーネント小委員長の 2 名を派遣した。また協賛団体である SEAJ の市場動向セミナーに参加し、統計委員会にて報告を行った。

8) 環境委員会「真空機器に関する環境に係わる調査研究」

- ・ 会員各社に環境活動アンケートを実施し、「環境活動報告書 2019」を真空展にて多くの方へ配布する目的で、真空ジャーナル 9 月号に合併号として掲載した。
- ・ 9/5 に開催された真空展における環境トピックス「初心者向け環境法令 Basic 講座」を講演した。受講者：29 名（前年比:100%）
- ・ 今年度も「環境教育講座」を（一社）日本半導体製造装置協会（SEAJ）環境部会と共催で実施した。
12/6 関東地区（東京都トラック総合会館） 受講者数：93 名（前年比:124%）
2/21 関西地区（㈱島津製作所 関西支社） 受講者数：39 名（前年比:130%）
- ・ 環境委員会プライベートセミナーとして、資源エネルギー庁 新エネルギーシステム課 佐久間 康洋 課長補佐をお招きして、「分散型エネルギーリソースを活用したエネルギーシステムの構築に向けた取り組み」というテーマで、今後のエネルギー政策を解説していただいた。と題して講演していただいた。
- ・ 「他業界工場見学」を 2/6 に実施した。参加者：10 名（ANA 機体整備工場）

9) CS 委員会「真空機器に関する安全に係わる調査研究」

- ・ 9/5 に開催した真空展おけて作業安全教育講座「作業安全を見直すための講座」を講演した。受講者：35 名（前年比:73%）
- ・ 2/14 安全教育講座(関西)を開催した。受講者：21 名（前年比:105%）
- ・ 「見えない物の危険性とその対策」を掲載した。

10) 展示会委員会「真空産業に関する情報の普及および啓発」

- ・展示会は、日刊工業新聞社がイベント運営担当を行い、洗浄産業展、先端材料技術展、高精度・難加工技術展、表面改質展と併催として、パシフィコ横浜にて9/4～9/6の3日間開催した。
- ・有料出展は66社・団体、112小間（2018年は72社団体、127小間）と規模は減少した。3日間の入場者は10,815名（2018年は8,623名）と前年度比：125%となった。

単独開催から共同開催とした真空展は、異なる産業の関連技術が加わることで新たな発見やビジネスチャンスが生まれ、コラボレーションも相まって、新しい形の展示会が定着しつつある。特別基調講演会は下記3講演が行われた。

- ・9/4『神岡の地下から探る宇宙と素粒子～ニュートリノと重力波～』聴講者数：217名
講師 梶田 隆章 氏（東京大学 宇宙線研究所 所長）
- ・9/4『AIの生産現場導入の「今」とディープラーニングの課題、次世代AI【進化的機械学習】を事例で学ぶ』聴講者数：177名
講師 長尾 智晴 氏（横浜国立大学 教授）
- ・9/5『ホンダの次世代モビリティとエネルギーマネジメント』聴講者数：167名
講師 岩田 知之 氏（㈱ホンダ技術研究所 執行役員）
- ・(公社)日本表面真空学会と合同で、真空フォーラム・シンポジウム『次世代自動車向け材料開発最前線』を9/6開催した。聴講者数：104名

11) 事務局

会員会社とのコミュニケーション

会員各位の意見交換の場として、下記の会合を実施した。

- 定時社員総会、記念講演会、懇親会（2019.5.31 芝パークホテル）
- 賀詞交歓会（2020.1.17 芝パークホテル）

公益社団法人 日本表面真空学会との協業

- ・規格標準合同検討委員会にてISO/TC112（真空技術）とJIS真空関連規格の作成活動を実施した。
- ・第12回JVSS・JVIAトップ会談を7/24に行った。（JVSS:荒川 一郎会長 他副会長3名）
- ・第41回VACUUM2019真空展を共同主催で行った。
- ・第17回真空技術者資格認定試験を行った。

内外関係機関等との交流および協力

- ・国内関連諸団体との情報交換やセミナー等の協力共同事業として、11の団体の展示会、講演会に協賛名義許諾の発行を行った。

経済産業省産業機械課との連携

- ・昨年度より開始された「中小企業等経営強化法の経営力向上」に係る証明書発行業務を行い、今年度の発行件数は81件あった。

協賛会員（1年間限定のトライアル会員）

- ・Trial会員:1社－ウィツエンマンジャパンの入会があった。

会員勧誘活動の件

- ・下記3展示会にJVIAブースを出展し、JVIA紹介、新規会員募集を行った。

新価値創造展 2019 2019年11月27日～29日

SEMICON Japan 2019 2019年12月11日～13日

3. 事業報告の附属明細

1) 出版物

- ・「環境活動報告書 2019」－環境委員会

2) 会員移動

年度内の会員の移動は以下の通りである。

【会員数】

| 会員区分 | 19.3.31 現在 | 入会 | 退会 | 20.3.31 現在 |
|------|------------|----|----|------------|
| 正会員 | 51 | 0 | 0 | 51 社 |
| 賛助会員 | 51 | 2 | 2 | 51 社 |
| 特別会員 | 10 | 1 | 0 | 11 団体 |
| 計 | 112 | 3 | 2 | 113 社・団体 |

| 会員区分 | 19.3.31 現在 | 入会 | 退会 | 20.3.31 現在 |
|-------|------------|----|----|------------|
| シニア会員 | 13 | 1 | 0 | 14 |

【入会】 賛助会員：鈴木機械(株)、(株)コンサス

特別会員：光学薄膜研究会

【退会】 賛助会員：(株)トヤマ、(株)ジェイピック

※事業報告書の内容を補足すべき重要事項はありませんので附属明細書は作成しない。

以上